各地の会議報告（西日本編）

時の窓

158号
ZENSIHO-SEINENKYO
2013/6/7

今年度も各地連において青年層を対象とする各種会議が開催されました。
青年部長会議やウインタースクール（労働学校）など、地連ごとに工夫を凝らした内容となりました。会議の模様を担当地区の常任委員が報告します。
まずは、西日本編（九州・四国・中国・近畿・中部）です。

～九州～

九州地連では、2012年12月8日から9日にかけて、管内全支部から青年部長又は副部長が参加し、地連役員も含めた合計24名で青年部長会議を開催しました。

会議の目的は、「自分の支部でできることを取り入れ、現場に帰ってからの活動に繋げよう」というものでした。このような目的のもと、1日目に支部同士での質疑討論や、2日目の新企画「組合がもっとこうなればいいのに！」を行いました。

上記の新企画について説明を加えると、組合という組織をより発展させるために、組合に対して抱いている不安な点や不満な点を討議し、工夫改善できる点をさぐろうというものでした。今回は「役員の負担」、「学習」、「勧誘」の3テーマから、参加者自身に興味のあるテーマを選択してもらい、テーマごとにグループ討議を行いました。

2日間を通しては、出席者の多くが討論に積極的で、2日間ともざっくばらんに意見を出し合えたのではないかと思っております。九州地連管内の各支部青年部役員のみなさま方、そして青年協の大窪さん（北海道地区常任委員）、小島さん（東京地区常任委員）、本当にありがとうございました。

九州地区常任委員　安部　彰

クリック
全司法青年協　検索

～四国～

2013年1月26日、27日の2日間に渡って、四国地連青年部長会議を開催しました。

今年度も各支部青年部から青年部役員の代表者が参加し、青年協からの出席者と地連役員を含めて総勢17名の参加となりました。

初日は、組合に関する勉強会として、「①全司法の組織形態について」、「②全司法本部の活動について」を参加者と一緒に確認しました。①については、全司法本部、地連、支部、青年部、そして青年協がどのような位置づけにあるのか、②については、年間スケジュール表、全司法新聞、全司法情報を用いて、組合がどのような活動をしているか、をテーマに行いました。私自身も参加者と共に組合の身近な所から学習でき、大変有意義だったと思います。

2日目は、各支部の活動報告や意見交換を行いました。意見交換会の中では、新採用者への勧誘についてや、加入後のフォローについて、また、青年部内における連携についての意見が出されました。各支部青年部での様々なとりくみや悩みを共有することができたほか、青年協の晩澤事務局長（近畿地区）、同佐々木事務局次長（中部地区）からも意見をいただき、改めて役員の方（各支部青年部）との情報共有と連携の必要性を実感しました。

これから青年層を取り巻く環境が少しでも良くなるよう、四国一丸となって活動していきたいと思います。

四国地区常任委員　濱田智弘

「各支部の活動報告に刺激を受けた。一人で抱えてはダメだと感じたので、みんなで協力してやっていきたい。」

「自分の支部の中での活動だけでは気づかない点について多く知ることができ、参考となった。また、各メンバーとも交流を深めることができ、楽しかったです。」

～中国～

「組合の基本的な事項から発展的なことまで丁寧に勉強でき、参加して良かった。学んだことを各支部に帰って還元したい。」

～中国の続き～

2013年1月26日及び27日に中国地連青年部長会議を開催しました。中国5県の青年部(青年対策部)役員と地連役員、青年協からは井上議長と九州地区の安部常任委員を迎え、総勢17名が参加しました。

1日目は各支部の活動報告及び勉強会(「新たなJOプラン」、「賃金と情勢」など)を行い、各支部の実情を把握と意見交換を行いました。中国地区においては、各支部とも組合員同士の交流を図るためのレク活動を積極的に実施しているほか、レクにむけて財活を行う支部もあるなど、積極的な活動が行われています。

2日目は4月期新採用の加入に向けた具体的なとりくみを各支部ごとに検討し、発表しました。

また、この二日間の会議に参加した感想などを記載した教宣紙(壁新聞)を作成するなどして教宣活動の重要性も学びました。

中国地区常任委員　西川祐美子

～近畿～

近畿地連の青年部長会議は年に3回行われています。第1回は2012年10月26日に開催し、青年協議長が講師となって「全司法のとりくみ」を学んだほか、12月に開催したウインタースクール(労働学校)の内容を検討しました。

次に、第2回を2013年2月8日に開催し、地連教宣部長による「教宣紙の作成」に関しての講義と4月の近畿友好祭典にむけての準備、共済組合の附加給付見直しについて意見交換を行いました。

そして、第3回は同年5月に開催し、各支部の新採用職員の加入状況の把握と地連青年対策部の活動の総括、次年度に向けてとりくみについて意見交換を行いました。年度当初は「何を報告したらいいんだ」という感じでしたが、回を重ねるごとに報告や意見が増えていき、第2回では、仕事が終わって6時半から9時まで活発な意見交換が行われるなど、充実した会議となったことと思います。

近畿地連では平日に会議を行うことが多く、これは時間とお金の節約というメリットの反面、懇親会を開催しにくいというデメリットもあります。懇親会が目的というわけではありませんが、やはりかしこまった席での会話より、他愛ない話の中でふと出てきたことが新しい発見であったり、お互いをより深く知るきっかけになると思います。特に青年層においては、働く場所は違っても、同じ裁判所で働く仲間との交流は非常に有意義なものです。青年部長会議で一人でも多く知り合いを作り、ひとつでも多くの情報を持ち帰って、各職場がよりよい環境になってくれたらいいなと思っています。

近畿地区常任委員　晩澤美子

「一言で言えば、時間を忘れるくらい充実していました。自分の無知から追いつけないところもありましたが、たまには小さいところから抜け出して吸収しようとすることも必要だと思いました。」

「レクの企画等で、支部を代表してどんどん希望や意見を言えたらなあと思っております。」

～近畿の続き（参加者からの感想）～

今までは自分の支部（特に家裁）のことにしか知らなかったが、会議に出席して他の支部の状況を聞き、その上で今、求められていることは何かを意識するようになった。とりわけ、若手の組合加入率が支部ごとにこんなにも差があるのかと思い大変驚いた。ほぼ全員が加入している私のところのような支部とそうでない支部とではとりくむ内容にも差があると思うが、会議に出席された方々の真摯な姿勢に刺激を受け、なんとか近畿を盛り上げられるよう微力ながら力になれればと思った。

～中部～

2013年2月2～3日、福井県敦賀市において、総勢27名が参加して中部地連青年部長会議を行いました。参加者は青年部長から採用1年目の青年まで幅広い年代が参加し、活発に意見交換を行いました。

会議では、学習会として、「組合費の使われ方」をテーマに、組合員から集められた組合費がどのように使われているのか講義が行われ、さらに、組織拡大にむけて各支部が行ったレクリエーションや学習会における工夫、運営の悩み等を紹介するなど活動の参考となるよう意見交換を行いました。例としては、支部独自の新規採用者むけパンフレットの作成にあたって、庁舎付近のグルメ情報などユニークな案も取り入れ、地元により密着したパンフレットとすることで、親近感を持ってもらう、読みやすさの向上をはかる、といった工夫が紹介されました。

夜には懇親会を催して、参加者の親睦を深めてもらい、2日目には、レクリエーションの運営や意義を実践的に学んでもらうべく、実際にレクを体験しました。

今後も有意義な青年部長会議となるべく企画を練りに練っていきます。みんなでより良い職場、人間関係を作っていけるように頑張りましょう。

中部地区常任委員　佐々木　淳

熱心な意見交換の様子

そば打ち体験中♪

～参加者からの感想～

雪も少なくスムーズに敦賀へ到着できたおかげで、敦賀グルメを味わうこともでき、準備万端？で会議に臨みました。

1日目は組織拡大を中心に議論が行われ、新採用の勧誘について各支部のとりくみが紹介されました。支部独自の勧誘パンフレットの活用など、工夫を凝らしたとりくみが報告され、大変勉強になりました。また、鳥井書記長から組合活動と組合費に関する講義があり、組合費が日頃どのように使われているか説明していただきました。

2日目は毎年恒例のレクが行われ、今年はそば打ち体験をしてきました。悪戦苦闘しながら何とか完成しましたが、大変不細工なそばができあがり、そば打ちの難しさを痛感しました。

会議に参加して各支部の熱心なとりくみを知ることができ、大変刺激を受けたので、まずは昨年、前部長が送迎バスを予約し忘れて中止になったボウリング大会を開催しようと心に固く誓いました。

次号予告～時の窓１５９号～
１５８号（本号）と同時発行
本号に引き続き、各地で行われた会議報告（東日本編）です。
こちらも読んでみてね～。